
国際基督教大学 (ICU) の教養教育

森本 あんり

「わたしは強制収容所の生き残りだ。わたしは、人の目が見てはならないものを見てきた。優れた技術者がガス室を作り、教育のある医師が児童に毒を盛った。熟練した看護師に幼子が殺され、大学出の知識人に女と子どもが撃たれて焼かれていった。だからわたしは教育というものに懐疑的だ。わたしの願いは一つ。学生たちが人間らしく成長できるよう助けなさい。学識ある怪物、技術に強い病的反社会人間、教養あるアイヒマンを生み出してはならない。読み書きも算術も、子どもたちをより人間らしく育てるのになかったら、何の役に立つだろうか。」

これは、児童教育の専門家であったハイム・ギノットの言葉である。ほとんど大学教育に対する弾劾の言葉といってよい。同時にそれは、「教養教育」という曖昧な日本語に明確な輪郭を与える。「教養教育」とは、小洒落た装飾品の別名ではない。「いかにして人間がより人間らしくあり得るか」を追求する教育である。

本号では各大学が教養教育の実例を紹介することになっているが、昨今日本の

大学に向けられた画一化への要請からすると、その内容は多少とも似通ったものにならざるを得ないだろう。ICUの教養教育についても、カリキュラムのことだけでなくキャンパスや入学者選抜のあり方など、個別に紹介したい内容は多いが、ここではそれらを成り立たしめている基本的な前提のことを書いておきたい。それは、教養教育における理想や理念の意義である。

どの大学にも、それぞれに目標とするところがある。第一線の研究者を養成するとか、国際化の水準を高めるとか、あるいは授業内容を充実させる、といった具体的な達成課題である。しかし、もし大学が「教養教育」を掲げるならば、それらとは別のもう少し遠いところに、何らかの人間理解や向かうべき理想像があるはずである。私学なら創立者の志や建学の精神にそれが表現されているだろう。そこにこそ、他大学が真似しようにもできない固有の輝きがある。

戦争の荒廃から平和を祈願しつつ設立されたICUの教養教育には、特にこの理念的な色彩が強い。創立者たちが「国際・基督教・大学」などという臆面もない名称を選んだ時点で、それは本学の運

命となり使命となった。今も深く教職員に共有されている理解によれば、教養教育は何よりもまず学生に「夢」を語り「幻」を見させなければならない。歴史を通して人びとが求め続け、なお達成することのできない理想を、それでも追い求め続けるべき尊い価値として提示し続けねばならない。そのような理念の駆動力なしには、どれほど環境を整え質の高い教育を提供しようとも、学生たちは与えられた餌を食べて肥えるだけの従順な家畜にしかならない。手段は後で学ばばよい。失望や幻滅も後からやってくる。それでも生涯を通して学び続けることができるのは、若き日の魂に志と信念の深みを宿すことのできた者だけである。

「世界人権宣言」とICU

こうした理念の具現化の一つが、1948年の国連総会で採択された「世界人権宣言」への署名である。ICUでは、1953年の開学以来今日に至るまで、すべての学生が入学に際してこの宣言に署名し宣誓する。当時の日本でほとんど知人のいなかった「世界人権宣言」だが、その起草委員会の委員長であったエレノア・ルーズヴェルトがICU創立委員会のメンバーでもあったことから、ICUでは早くからその存在が知られていた。ルーズヴェルト夫人は、第一回の入学式直後にキャンパスを訪れ、学生たちに直接この宣言の意義を語っている。

同じように、初代学長の湯浅八郎も、ICUは「人種、国籍、言語、性別、宗教、思想、イデオロギー、職業階級、社会的

地位、経済的能力等一切の差別」を超克する大学であると語り、初代学務副学長モーリス・トロイヤーは、「高等教育は、偏見が取り除かれ、人が解放される過程(bias reduction)でなければならない」と語っている。まさに「人を自由にする」リベラルアーツの本義である。

しかし、学生たちにこうした思いを伝えることは、当時も今もけっして容易ではない。草創期からの教員で昨年没した思想家の長清子は、今から半世紀以上も前の新入生に次のように語っている。

「私は、今日の日本の大学には『理想』が失われているように思う。『理想』などということがむしろ、何か気恥ずかしい骨董品のようなものとなっている感がなくもない。若い人たちは早くより損得の見分けに長け、自分に得にならないものには関心を持たないように自らを訓練し、社会に出て最も有効に有利な地位を獲得するために合理的な道筋を計画立てて大学を選択し入学する。そういう場合、大学は学生の立てた人生目標にむかって学生を導く上に最も合理的に奉仕するものであるか否かが必要問題なのであって、大学の理想などというものは昔の角帽の徽章ほどの意味もないということになるかもしれない。」

ICUに入学した諸君にも、それぞれに打算的思惑があるかもしれない。「だが」と長清子は続ける。「ICUに入った以上はここでちょっと立ち止まって、この大学はどのような目的と理想とに立ち、どういう人間を形成しようとする大学なのかということをお共と一緒に考えてもらい

たい。国際基督教大学はその目的と理想を本当の意味で大切にしている大学であり、教授も学生も大学の現実がそれにふさわしく形成されつつあるかということに関しては、常に遠慮なくきびしい問いかけをしあう大学だからである。」

もちろん、署名や宣誓をしたからといって、精神がそのまま現実になるとは限らない。これは1963年すなわち開学後わずか10年の講演だが、学生たちの間にはすでにその時点で無理解が広まっていた。長清子は、そういう学生たちに向かって、人権宣言の尊さとそれに参与することの世界史的な意義を諄々と語り直したのである。このメッセージは、現在も学生用ウェブサイトの最上段に置かれており、新入生オリエンテーションなどの際にしばしば引用されている。ICUの教養教育は、こうした理念に献身する精神を不断に維持する努力があってはじめて機能する課程である。

一般教育の意義

ICUは教養学部だけのリベラルアーツ大学なので、全学生の四年間すべてが教養教育である。その中核部分を構成する「一般教育」General Educationは、湯浅学長によれば、「戦前の大学の在り方や世間の大学の期待等に対する反省と批判」に基づき、「責任をとることのできる実力あり道義ある市民」を養成するために、「専門的知識と技術とを習得するだけでなく、人格として、一個の人間と

して、良識と良心の持ち主であること」を求める人間形成の場である。

したがってそれは、専攻を前提とした初学者のための導入教育ではない。専門と並行して履修することにより、自己の専門を別の角度から捉え、他領域と関連づけて考えるための授業である。担当者は、各分野で専門科目を教える教員でなければならない。狭い専門を教えることは学位を取得したばかりの駆け出しにも可能だが、当該分野の全体を見渡し、その核心や精髓を専門以外の学生の興味と関連させて教えることは、その道を究めた大家でなければできないからである。

学生向けの「一般教育ハンドブック」には、次のように記されている。「本学が育成することを願う人間像とは、自分の社会や文化の常識を当然視することなく、未知の価値や思想に接して対話を重ね、他者との新たな関係の中に自己を見つめ直すことができる人です。」学生はそこで、自分が予想だにできなかった心躍る学びを知り、想像もできなかった新しい世界に出会って圧倒されることになる。

もし、ダニエル・ブーアスティンが言ったように、「自分が知らなかったということすら知らなかった」ことを学ぶのが教育であるとすれば、自分の無知に気づいて学び始める専門課程よりも、このような一般教育こそが本来の意味での教育だということになろう。

(国際基督教大学 学務副学長／神学宗教学)

IDE 現代の高等教育

2019年5月号もくじ

●巻頭言	菊池大麓と教養教育	天野 郁夫	2
------	-----------	-------	---

●今月のテーマ	《今、教養教育とは》		
	教養の構造転換	竹内 洋	4
	日本の一般教育・教養教育		
	—導入したものでできなかったもの	吉田 文	9
	不測の時代の教養教育	金子 元久	15
	国際基督教大学 (ICU) の教養教育	森本あんり	22
	東大教養教育の理念と実態	藤垣 裕子	25
	東京工業大学の教養教育	上田 紀行	28
	国際教養大学のリベラルアーツ	鈴木典比古	31
	学部調査にみる日本の教養教育の動向	杉谷祐美子	35
	教養系学部の教育内容の多様性	栗原 郁太	41
	米国の教養教育	アキ・ロバーツ	46
	中国における「通識教育」	石井 光夫	50
	欧州におけるリベラルアーツ・サイエンス教育の復権		
		杉本 和弘	54

●時の課題	《AIと大学》		
	Artificial Intelligence (AI) をめぐって	佐藤 禎一	60
	AIと大学	小山田耕二	64

●Book Review	溝上 慎一 著『大学生白書2018』	溝上 慎一	68
	ジェラルド・ガーニーほか 著, 宮田 由紀夫 訳		
	『アメリカの大学スポーツ—腐敗の構図と改革への道—』		
		友添 秀則	70

●一滴	社会人の学び直しを考える		72
-----	--------------	--	----

●取材ノートから		増谷 文生	73
----------	--	-------	----

	2018年度IDEセミナー報告	IDE九州支部	76
--	-----------------	---------	----
